

新聞に親しみ、記事から自分の考えを導く生徒の育成

日向市立大王谷中学校
教諭 島崎博英

1 はじめに

本校は昨年度よりNIE実践指定校となり、3年生を中心としたNIE活動に取り組んだ。また、NIE全国大会（青森県開催）にも参加させていただき、全国規模でのNIE教育の広がりや、肌で感じることができた。自分自身新聞をつくるという経験もなかったが、全国大会では、その経験もすることができ、その後の取組に大いに活かすことができた。昨年度は、新聞に親しむということをねらいとして、日々学級の中で使える取組を主に1年間行ってきた。その成果か、学級の中で新聞を手にとり、話している生徒の姿を見ることができた。また、授業においても、自分自身が導入部分で新聞記事を紹介することが定着するようになった。生徒にも違和感なくとらえることができるようになり、自然な形で新聞への親しみを実感することができた。

2 主題設定の理由

昨年度同様、3年生を中心とする取組を行うこととなった。その中で、第一に考えたことは、「生徒の活動がわかるNIE教育」である。授業の中で新聞記事を活用することはもちろんであるが、生徒が新聞をつくることや、新聞スクラップをつくるといった活動を取り入れることも考えた。これらの活動をとおして、より新聞が身近に感じ、新聞を読み、自分が感じたことを表現することにつながることはできるのではと考えた。今年度より中学校の学習指導要領が全面改訂となり、各教科において「言語活動の充実を図る」ことが

明記されている。言語活動の充実を図る手立てとして、新聞の活字をしっかりと読み込むことや新聞記事について、自分の考えをもち、文章として表すことが大変重要であると考えられる。また、自分たちで壁新聞をつくることをとおして、新聞作成に携わる人たちの日々の工夫、苦労等を感じ、理解することが新聞に親しむ大きな手立てとなることも考えられる。主体的に新聞を読み、自分で考えを導くことのできる生徒を育成したいと考え、この主題を設定した。

3 実践内容

- (1) 第3学年 社会科の授業における取組
 - 社会科公民的分野において、新聞記事を活用した授業実践
- (2) 第3学年 総合的な学習の時間における取組
 - 職場体験学習のまとめとしての壁新聞作成
- (3) 第3学年 新聞スクラップ作成
 - 夏期休業中の課題として、新聞記事の切り抜き、自分の考えをまとめる取組

4 具体的取組

- (1) 第3学年 社会科の授業における取組
 - ア 単元名 「ノーマライゼーション」
(公民的分野の内容)
 - イ 本単元の目標
障がいのある人たちとの共生を図るた

め、自分たちができることについて考える。

ウ 本授業での新聞の活用方法

①授業の導入部分で、「ロンドンパラリンピック」に出場した選手の新聞記事を紹介し、その記事の要約を行わせた。また、要約の際の注意として、「キーワード」をいくつか生徒に発表させ、学級全員が要約に取り組めるようにした。新聞を読むことについては、さほど抵抗なくできていた生徒も、要約をする取組になると、難しいと感じるようになる。そこで、「キーワード」を設定することで、「1から考えなくてもできるんだ」というプラスの発想に変化させることができるのではと考えられる。

②授業の展開部において、「自動車メーカーが福祉車両に力を入れている」という内容の記事を紹介した。この記事を読んで、「なぜ福祉車両の需要が伸びているのか」という課題を設定し、グループ活動で予想させるという取組を行った。

①で使用した新聞記事



(2012年9月9日 読売新聞)

②で使用した新聞記事



(2012年9月9日 読売新聞)

エ 授業後の生徒の感想

夏休みの宿題で新聞スクラップをしていたので、この授業でやった要約は意外にかんたんだった。でも文章を書くことは苦手なので、これからも練習をしたいと思う。

【女子生徒の感想】

夏にロンドンオリンピックがあつて、その後いつもパラリンピックがあつていことをはじめて知った。日本人がこんなに活躍していることにびっくりした。でも、新聞を読んで自分がまとめたから、どういうことがあつたのかよくわかつたのでよかつたです。

【男子生徒の感想】

(2) 第3学年 総合的な学習の時間における取組

○ 壁新聞の作成

3年生は、6月27～29日の3日間、職場体験学習を行った。さまざまな職種の事業所での勤労体験をとおして、将来自分がやりたい職業に関心をもたせようとする目的で行っている。その後、学校でまとめをしたが、個人でのまとめを、壁新聞にして発表するという活動を行った。新聞作成の流れは・・・

- ① 同じ職種の事業所で体験活動を行った生徒をグループで分け、体験活動についての振り返りを行う（2時間）。
- ② 壁新聞の見本を見せながら、教師による事前指導を行う（1時間）。
- ③ 個人で活動する（3時間）。

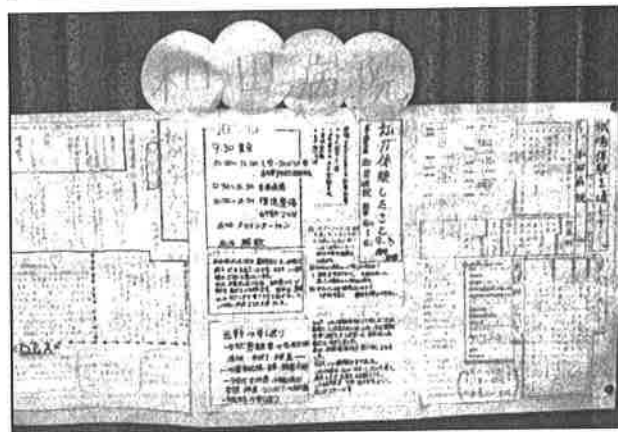
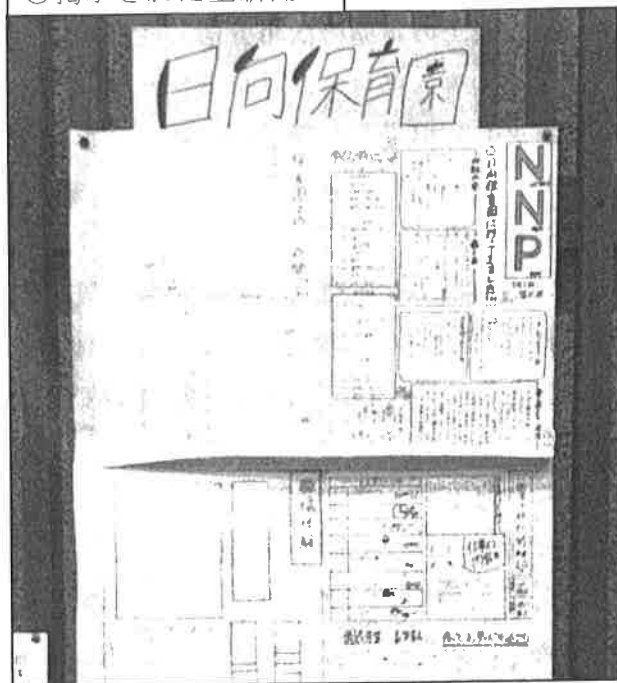
とした。

なお、作成した壁新聞については、1月に行われた発表集会の際、体育館に掲示し全校生徒、保護者に見てもらった。

○ 壁新聞作成の様子



○ 掲示された壁新聞

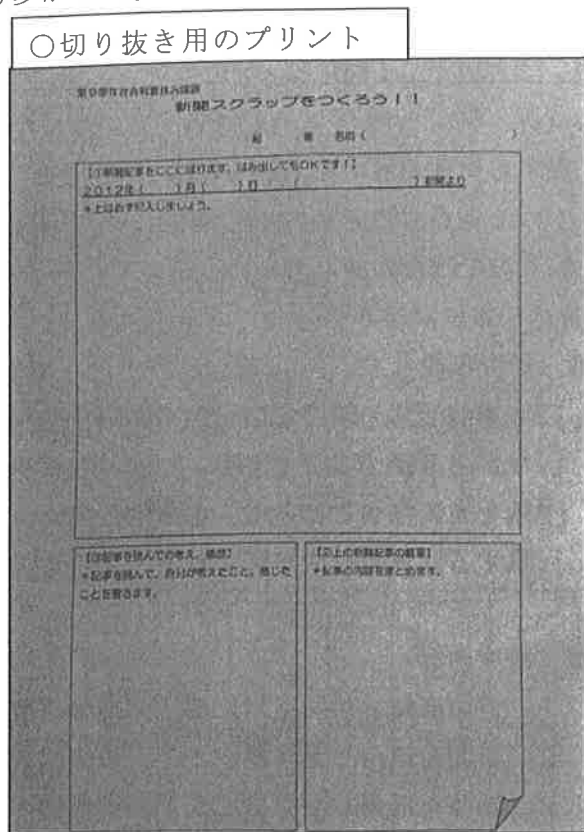


(3) 第3学年 新聞スクラップ作成

○ 夏期休業中の課題として・・・

3年生の夏期休業中の課題として、新聞の切り抜きを行った。休み中、2つ新聞記事を選び、記事の要約と記事について自分が感じたこと等をプリントに記入した。なお、7月終わりにロンドンオリンピックが開催されたこともあり、記事選ぶ際の条件として、2つともオリンピック関連ではなく、1つは政治、経済、社会面から選ぶよう指示をした。また、記事の切り抜きについても、ただ切り抜くだけでなく、いくつかの文を切り抜きあわせてみたり、色をつ

けたりと創意工夫をこらして表現しているも多かった。



5 成果と課題

(1) 成果

昨年度に比べ、生徒が壁新聞をつくることや、新聞の切り抜きに取り組むといった生徒が主体的に取り組む活動ができ、生徒の考えを引き出す活動ができたことは大変意義深かった。また、社会科だけでなく、総合的な学習の時間でも取り組んだことで、他教科の職員も巻き込み、NIE教育に取り組むことができ、学校内での広がりにもつなげることができた。

(2) 壁新聞の作成に関しては、専門家（新聞社の記者の方等）から実際にレクチャーを受けることもできたのではないかと、悔やまれる。担当が年間の計画を早めに打ち出し、新聞社との打ち合わせもこなしておけば、より生徒の理解が深まる新聞作成ができたと思っている。